

機械器具(25) 医療用鏡
一般医療機器 再使用可能な内視鏡用非能動処置具 JMDN 38818000

トリガーフィンガー リリース システム

【警告】

【使用方法】

- ・本品は未滅菌品である。必ず適切な方法で滅菌してから使用すること。(【保守・点検に係る事項】の項参照)

【禁忌・禁止】

【使用方法】

- ・本品を曲げ、研磨、切削、打刻(刻印)等の二次的加工(改造)することは、破損の原因となるので絶対に行わないこと。[不具合の原因となる。]
- ・本品はスミス・アンド・ネフュー社製 2.7 mm 内視鏡及びディスポーザブル ナイフ(トリガーフィンガーリリース システム用)と共に使用することを目的とした製品である。他の製品と併用しないこと。[不具合の原因となる。]
- ・カニューラ ショートウィンドウ(#7207689)には 2.7 mm ショートスコープを、カニューラ ロング ウィンドウ(#7207741)には 2.7 mm ロングスコープを使用すること。2.7 mm 以外もしくは他社の内視鏡と併用しないこと。[不具合の原因となる。]

【形状・構造及び原理等】

本品は鏡視下腱鞘切開手術に使用する製品である。本品には以下の構成部品が含まれており、梱包されている構成部品については直接の容器・被包に記載してある。

カタログ番号	構成部品名
7207698	トリガーフィンガー リリース システム
外観	



(注:本品には、ディスポーザブル ナイフは含まれない)

＜構成部品リスト＞

カタログ番号	構成部品名
形状	
7207689	カニューラ ショートウィンドウ



7207741	カニューラ ロングウィンドウ
---------	----------------



3807	オブチュレーター
------	----------



7207721	スロットカニューラ用オブチュレーター
---------	--------------------



7207697	ブラントディセクター カーブ
---------	----------------



7207875	プローブ
---------	------



- ・原材料: ステンレス鋼
- ・原理: 本品は、鏡視下腱鞘切開手術において関節鏡を挿入するための補助と治療を行う。

【使用目的又は効果】

本品は、内視鏡治療時に専用の内視鏡とともに使用する器具で、組織又は異物の切除等の機械的作業に用いる。本品は再使用可能である。

【使用方法等】

- (1) 各指に応じて A1 プーリー及び皮切部位(中枢側、末梢側)をデザイン、マーキングし切開する。
- (2) ブラント ディセクター カーブを腱鞘の上を滑らせるように挿入し、溝を作る。
- (3) スロット付きカニューラにオブチュレーターをセットする。これを中枢側より挿入し、末梢側へ貫通させる。
- (4) オブチュレーターを抜き、綿棒(別売り)でカニューラ内の麻酔薬をふき取る。
- (5) カニューラの中枢側より選択した 2.7 mm 内視鏡を挿入する。
- (6) 末梢側よりプローブを挿入し、スロットから鏡視しながら A1 プーリーをプロービングし確認する。
- (7) プローブを抜き、かわりにフックナイフ(別売り)を挿入し、A1 プーリーを切離する。
- (8) カニューラを抜き、十分圧迫止血した後、生理食塩水で洗浄し、縫合する

手技の詳細については、取扱説明書又は手技ビデオを参照すること。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1) 専門医の監視指導下でのみ使用すること。
- (2) 本品は未滅菌品である。使用前に必ず適切な方法で洗浄・滅菌を行うこと。(【保守・点検に係る事項】参照)
- (3) 使用前に、破損・変形・亀裂・傷・摩耗が無い、適切に機能するかどうかを点検すること。また、本来のものではない表面のざらつき、鋭角、突起がないか点検すること。破損等が確認された場合は使用せずに、メンテナ

取扱説明書を必ずご参照ください。

S-D010-002
BC: 10383

- ンスあるいは修理を依頼すること。
- (4) 【使用目的又は効果】欄の記載内容以外の用途で使用しないこと。
- (5) 使用時には必要以上の力を加えないこと。硬い組織や骨に対しテコのように力をかけないこと。無理な使用により、破損、先端部や顎部の曲がり、刃先の鈍化や噛み合わせ不良が起きる。
- (6) 使用後は、直ちに破損・折損がなかったかを点検すること。破損等が見つかった場合は、破片が体内に遺残していないか調べ、遺残していた場合は摘出等の適切な処置を行なうこと。
- (7) 薬液による滅菌は避けること。

2. 不具合・有害事象

(1) 不具合

- ・ 過大な力を加えたことによる製品の破損
- ・ 金属疲労による製品の破損

(2) 有害事象

本システムによるバネ指開放術では、以下の有害事象が発現する可能性がある。

1) A1 プーリー以外の組織の損傷

- ・ 腱損傷
- ・ 神経損傷
- ・ 血管損傷

[合併症を回避するために、切離操作を行う前にカニューラと靱帯（A1 プーリー）との間に介在する組織がないことを確認すること。どうしてもこれらが避けられない場合には、無理をせずに従来法に切り替えること。また、術後には腱損傷等の有無を確認すること。]

2) A1 プーリーの不完全切離

[本手法を行った後、A1 プーリーが完全に切離していない場合がある。部分的にA1 プーリーが切り残されると、症状がとれないばかりか、かえって部分的圧迫が強くなり症状増悪するおそれがある。]

- 3) 感染症や壊死
- 4) 金属への過敏反応

【保管方法及び有効期間等】

- ・ 洗浄後は十分に乾燥させ、水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

【保守・点検に係る事項】

1. 洗浄

- ・ 洗浄液は、中性（pH6.0～8.0）の低発泡性酵素洗浄剤を推奨する。
 - ・ pHの高い洗浄剤もpH11.0を超えないものであれば使用できる。
- (1) 手洗いの場合：
- 1) 開閉部分がある場合は、全開の状態にする。組み合わせ部分は外す。
 - 2) 酵素洗浄剤に最低5分間浸漬する。
 - 3) 複雑な構造部分から、付着した汚れを洗浄ブラシを使用し、除去する。接合部分、管状部分や穴をよく密着するブラシで左右によじりながら擦り洗いする。可動部分がある場合は、動かして全ての面を洗浄する。溝部分とヒンジ/合わせ部分の表面をブラシで擦る。
 - 4) 暖めた酵素洗浄剤の中で、15分間の超音波洗浄を、機器を全開のポジションで行なうことを強く推奨する。
 - 5) 温湯で十分にすすぎ、複雑な構造部分を十分に洗い流す。先が塞がった穴は何回も水を出し入れしてすすぐ。
 - 6) 汚れが残っていないかよく点検し、汚れが発見された場合は、再度洗い直すこと。
- (2) 機械洗浄の場合：
- 予備洗浄を行なう。
- 1) 酵素洗浄液に浸漬し、管状部分、合わせ部分などをよく密着するブラシで擦り洗いする。可能であれば、左右によじりながら擦り洗いする。

- 2) 暖めた酵素洗浄剤の中で、最低10分間の超音波洗浄を、機器を全開のポジションで行なう。

3) 温湯ですすぐ。

自動洗浄サイクルのパラメーター

- ・ 5分以上の水による前洗浄
- ・ 5分以上の酵素洗浄（43℃）
- ・ 5分以上の洗浄液洗浄（55℃）
- ・ 1分以上のすすぎ（45℃）

熱湯消毒（91℃）は、少なくとも1分間行なう。

2. 滅菌

本品の滅菌には下記の方法を推奨する。

（滅菌時間及び温度は滅菌器のタイプや滅菌サイクル、包装材料により異なるので、滅菌前に滅菌器の取扱説明書及び病院の滅菌手順を参照すること。）

(1) オートクレーブ滅菌の場合

滅菌サイクル	温度	滅菌時間
標準温度重力置換	121℃	30分以上
高温重力置換	132℃	10分以上
プレバキューム	132℃	3分以上
WHO サイクル	134～138℃	18 分以上

(2) エチレンオキシドガス滅菌の場合

温度：50～60℃

湿度：60～100%

エチレンオキシドガス濃度：580～730mg/L

曝露時間：4 時間以上

エアレーション：12 時間以上

*【主要文献及び文献請求先】

スミス・アンド・ネフュー株式会社

マーケティング部

電話番号：03-5403-8671

*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

スミス・アンド・ネフュー株式会社

電話番号：03-5403-8671